



滋賀県草津市立草津中学校
令和4年9月2日（金）発行



「いのちがやき 心豊かな生徒の育成」
～ひとを大切に ひとつを大切に～
9月2日現在 全校生徒数662人

「人を思う」温かい心

～INP（いじめ無くそうプロジェクト）の活性化を目指して～

校長 高田 聡

長かった夏休みが終わり、いよいよ2学期が始まりました。始業式でも話したように、9月は「いじめ防止強化月間」です。本校のINP（いじめ無くそうプロジェクト）がより充実するために、大切にしなければならないことを今回は考えていきましょう。

私たちは人として生きていく上で、周囲の人たちに対する「思いやり」や「感謝」が重要であることは知っています。そうした心を具体的な行動に表して人を喜ばせたり、励ましたり、助けたりする



のはとても大切なことです。しかし、よくよく考えてみるとそれらはすべて「相手に心を向けること」から始まるのではないのでしょうか。それは「一人ひとりを尊重する姿勢」ともいことができます。まずは一人ひとりにしっかりと心に向ける努力をしてこそ、今の相手が必要としていることも、相手の長所や美点も、相手に感謝すべき点も見えてくるでしょう。そこでの気づきは、相手に対して今後どのように接するか、どのような言葉をかけるかといった、具体的な行動をも左右することになります。私たちが日々心に向けるべき相手として、どのような人が思い浮かぶでしょうか。例えば家族。親しい付き合いのある友人など。学級や部活動などでかかわりのある人たち……。あわただしい毎日の中でも、自分は今周囲の人たちに対してどのように心に向けているのかという点を、時には振り返ってみたいものです。

<夏季総合体育大会県大会>

「人は一人では生きていけない」といわれます。私たちは日々接する人たちに対して、どのような形で温かい心を表すことができるでしょうか。ささやかな行為を挙げるなら、明るい表情で接する、相手の話に心から耳を傾ける、温かい励ましや感謝の言葉を伝える……。これらはどれも特別な行為ではありませんが、相手を思いやる心の確かな表れといえるのではないのでしょうか。さらには「人と直接触れ合ったときに発揮する思いやりの行為」だけが大切なわけではないという点も、心に止めおきたいものです。私たちが社会生活を送る上では、必ず何らかの形で他の人たちの「支え」や「思い」を受けています。誰かが自分に向けてくれた温かい思いを、直接的ではなく、人づてに知ることもあるでしょう。あるいは何年もたってから気付く「誰かの思い」もあるでしょう。そしてその思いに気づいたときに、私たちの心の中に「生きる力」が湧いてくるのではないのでしょうか。「今度は自分が誰かのことを支えられるようになりたい」という思いは、そこから生まれてくるのかもしれませんが、一つの思いにも、一つの行いにも「思いやりの心」を込めて……

そう心がける生き方には、日々接する人たちとの間に円満な人間関係を築くとともに、自分自身の心を成長させて、人生を明るい方向へと導いていく力が潜んでいます。そこで生まれたぬくもりは、きっと周囲にも波及して、よりよい学校を築く原動力となっていくのではないのでしょうか。



<取材を受ける吹奏楽部>